

生活保護基準の引き下げ反対などを訴えて座り込む人たち―19日、国会前



生活保護 今でもギリギリ 下げないで

国会前座り込み 4日間で200人

「生活保護を引き下げないで」「扶養や就労の強要など制度改善をやめて」。19日、初夏を思わせる日差しのもと国会前で生活保護改悪に反対する座り込みが行われました。

「いてもたってもいられなくて」「安倍首相の国民いじめを許さない」と、首都圏を中心に約60人が参加しました。生存権裁判を支援する全国連絡会、中央社会保険推進協議会、全国生活と健康を守る会連合会（全生連）の共催。

この日は4日間の座り込みの最終日。この間、青森や福島などを含め、のべ約200人が参加しました。前日につづき今回初めて国会にきた東京都足立区の富山清一さん（72）は、都営住宅に1人暮らし。長年建設現場で働き、65歳からは月6万5千円の年金だけで「食べたり食べなかつたりの苦しい生活」でした。昨年夏、地域の生活と健康を守る会の訪問を受け、初めて生活保護を受けられると知りました。

「1万円の保護費ですが、受けられなかったら今ごろどうなっていたか」。富山さんは議員への要請で「今でもぎりぎりの生活です。引き下げないで」と訴えました。

富山さんと一緒に議員要請に回った同区の鎌田クニさん（63）も初参加。生活保護を利用していますが、食費は月に1万5千円だけで、朝はパン1枚といえます。「座り込みをして、これまでもこうやってがんばってきた人がいたと知りました。今後も参加します」

全生連の前田美津恵事務局長は、「先日ができなかったのは運動の力です。一方、『就労支援』は4月か

ら強めると確認しました。人権を無視した就労指導や不当な保護打ち切りにはただちに抗議し撤回させる運動を地域で起こしていこう」と呼びかけました。